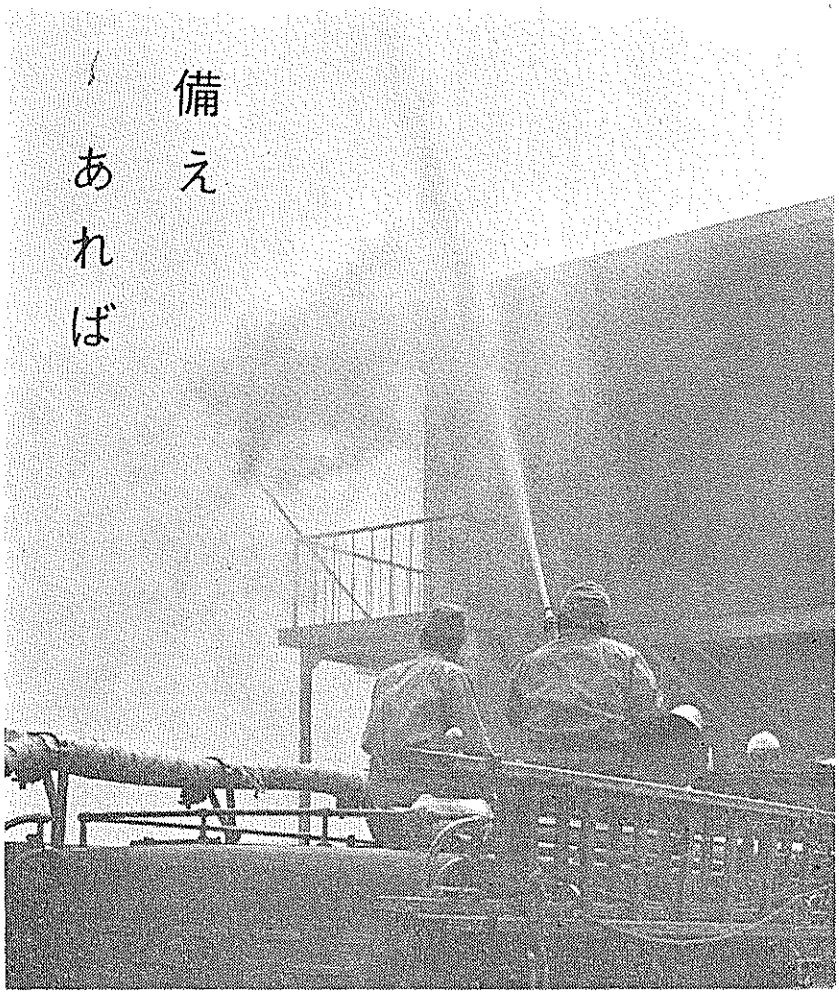
THE KOHO NANKOKU
広報ナンコク

第56号
昭和39年6月20日
編集発行
南国市広報委員会
事務所
高知県南国市役所内
（電 2111）
印 刷 川北印刷株式会社
（電 3151）



備えあれば

努力を積もう

＝夏期消防訓練＝

市と介良村との連合による夏期消防訓練が、この十七日に行なわれた。

当日は協和農機の自警団も参加して、南部、中部、北部の三中隊に分かれ、各地で中継による放水消火訓練を行ない、日頃の腕前を市民の前に披露した。

終って日吉神社に集結、講評を受けたのち、団員表彰の伝達式もあり、消防車による市中行進を行ないつつ解散した。

〝忘れた頃に〟の言葉どおり、国体のほとぼりのまださめきらぬ新潟地方に、史上に残る災害が起こった。むかしから大平洋側は地殻運動が激しく、日本海側はさほどではないとされているが、こんどの地震はその定説を破ったものといわれている。▼新産都市として、着々工業化が進められている土地柄とあって、産業施設に対する災害は大きく。人命に対する損傷の比較的に少ないのはこの地震の特徴といえよう。▼われらが郷土土佐は有数な地震帯で、南海地震が二度起こらないとも限らない。遠いむかしのことでなく、明日もいますぐにでも、その危険性を孕んでいる。▼〝災害は忘れたころ〟でなく、いつも災害は身近に発生している。交通地獄や、火災風水害と数え切れなく、毎年、いや毎日繰りかえされ、いつわが身にかかってくるかわかったものではない。それを防ぐには充分な予防策と、常日頃からの心構えが大切である。